

地区別防災カルテ(西区)

指扇中学校区
宮前中学校区
土屋中学校区
大宮西中学校区
馬宮中学校区
植水中学校区

さいたま市防災カルテ

指扇中学校区

①学区の概況と課題

◆学区の概要

【位置】西区の北部に位置している。
 【土地利用】学区内には住宅と畑が混在した地域が広がっており、南部に区役所、中央部東寄りに消防署がある。
 【交通】学区の南部には国道16号とJR川越線が走っており、北東部には国道17号が走っている。

◆学区の位置



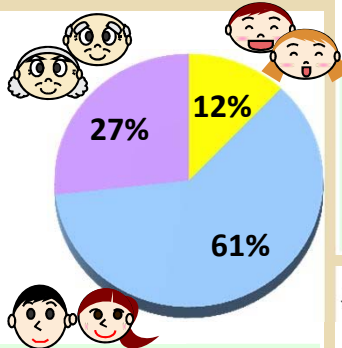
◆学区内被害想定結果

地震	さいたま市直下地震	関東平野北西縁断層帯地震	東京湾北部地震			
最大震度	6強 (6.3)	6強 (6.4)	6弱 (5.8)			
最小震度	6弱 (5.9)	6弱 (5.8)	5強 (5.2)			
死者	21人 (0.1%)	30人 (0.2%)	0人 (0.0%)			
負傷者	195人 (1.1%)	233人 (1.3%)	17人 (0.1%)			
避難者	1,924人 (10.6%)	2,326人 (12.8%)	86人 (0.5%)			
全壊建物棟数	600棟 (8.5%)	823棟 (11.6%)	6棟 (0.1%)			
うち焼失棟数	172棟 (2.4%)	192棟 (2.7%)	0棟 (0.0%)			
半壊建物棟数	1,325棟 (18.7%)	1,428棟 (20.2%)	217棟 (3.1%)			
水害	荒川	利根川	江戸川	芝川等	綾瀬川等	鴨川等
床上浸水建物棟数	2,514棟	0棟	0棟	0棟	0棟	0棟
床下浸水建物棟数	2,844棟	0棟	0棟	0棟	0棟	0棟

※震度のカッコ内は計測震度を、それ以外のカッコ内は学区内の比率を示す。

◆人口概況 (平成22年国勢調査)

	指扇中学校区	全市平均
総人口	18,183人	
人口等		
0-14歳	2,185人 (12%)	(14%)
15-64歳	11,126人 (61%)	(67%)
65歳以上	4,872人 (27%)	(19%)
人口密度	2,297人/km ²	5,766人/km ²

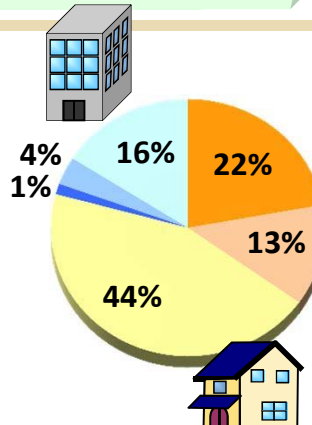


- 【地震】関東平野北西縁断層帯地震の震度が最も大きくなっており、**地区の約30%が全壊・半壊の被害**を受け、**地区の数%にあたる建物は焼失する恐れがある。**
- 【水害】荒川が氾濫した場合、**地区の75%以上が浸水被害**を受ける。

● 全市平均と比較すると、**65歳以上の高齢者層が多い。**

◆建物概況 (平成23年度さいたま市都市計画基礎調査)

	指扇中学校区	全市平均
総建物棟数	7,082棟	
建物		
木造(昭和46年以前)	1,568棟 (22%)	(17%)
木造(昭和47-55年)	900棟 (13%)	(12%)
木造(昭和56年以後)	3,142棟 (44%)	(45%)
非木造(昭和46年以前)	93棟 (1%)	(1%)
非木造(昭和47-55年)	249棟 (4%)	(3%)
非木造(昭和56年以後)	1,130棟 (16%)	(21%)



● 全市平均と比較すると、いわゆる**旧耐震基準の木造建物が比較的多い。**

◆防災関連施設情報 (平成26年2月時点)

種別	名称
避難場所	指扇中学校、指扇小学校、指扇北小学校、県立大宮北特別支援学校、健康福祉センター 西楽園、指扇公民館
一時・広域避難場所	埼玉栄高等学校
市・区役所等窓口	西区役所
消防署・出張所	西消防署
警察署・交番	指扇駅前交番
救急病院	指扇病院
緊急給水場所	指扇中学校、指扇小学校、指扇北小学校、北部配水場

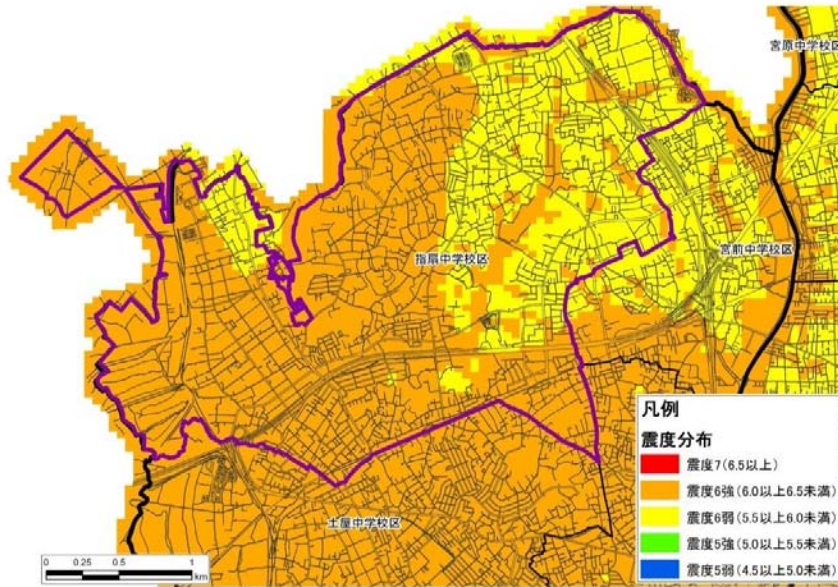
◆被害想定結果からわかる防災上の主なポイント

- 【耐震化】古い木造建物が多い地区のため、**耐震化率の向上が必要。**
- 【避難】高齢者層が多く、**地域で協力した避難行動・救助活動が必要。**

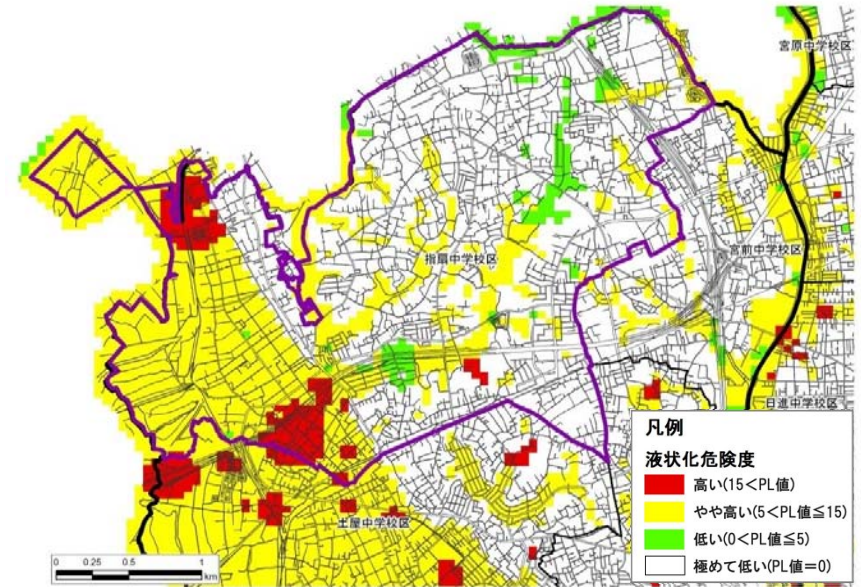
②さいたま市直下地震の想定 さいたま市防災カルテ

指扇中学校区

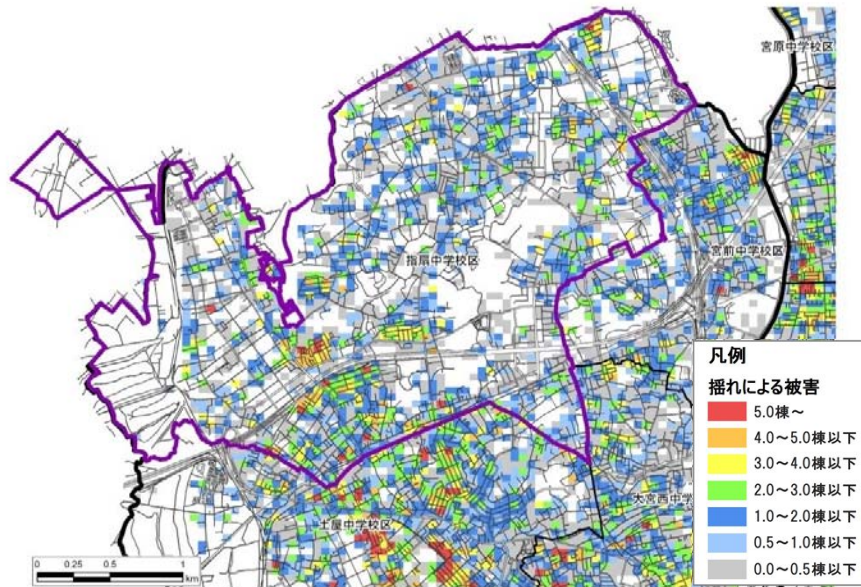
震度分布図



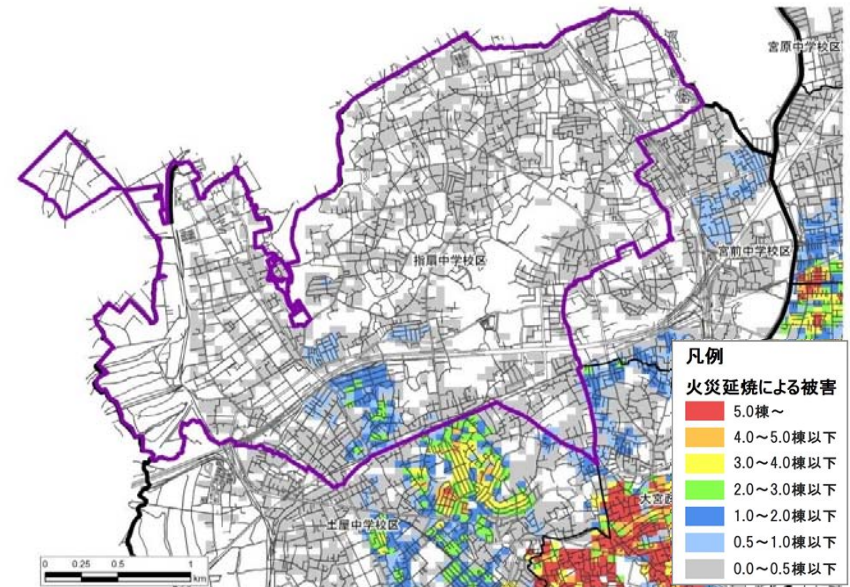
液状化危険度分布図



建物被害分布図（揺れによる被害）



建物被害分布図（火災延焼による被害）



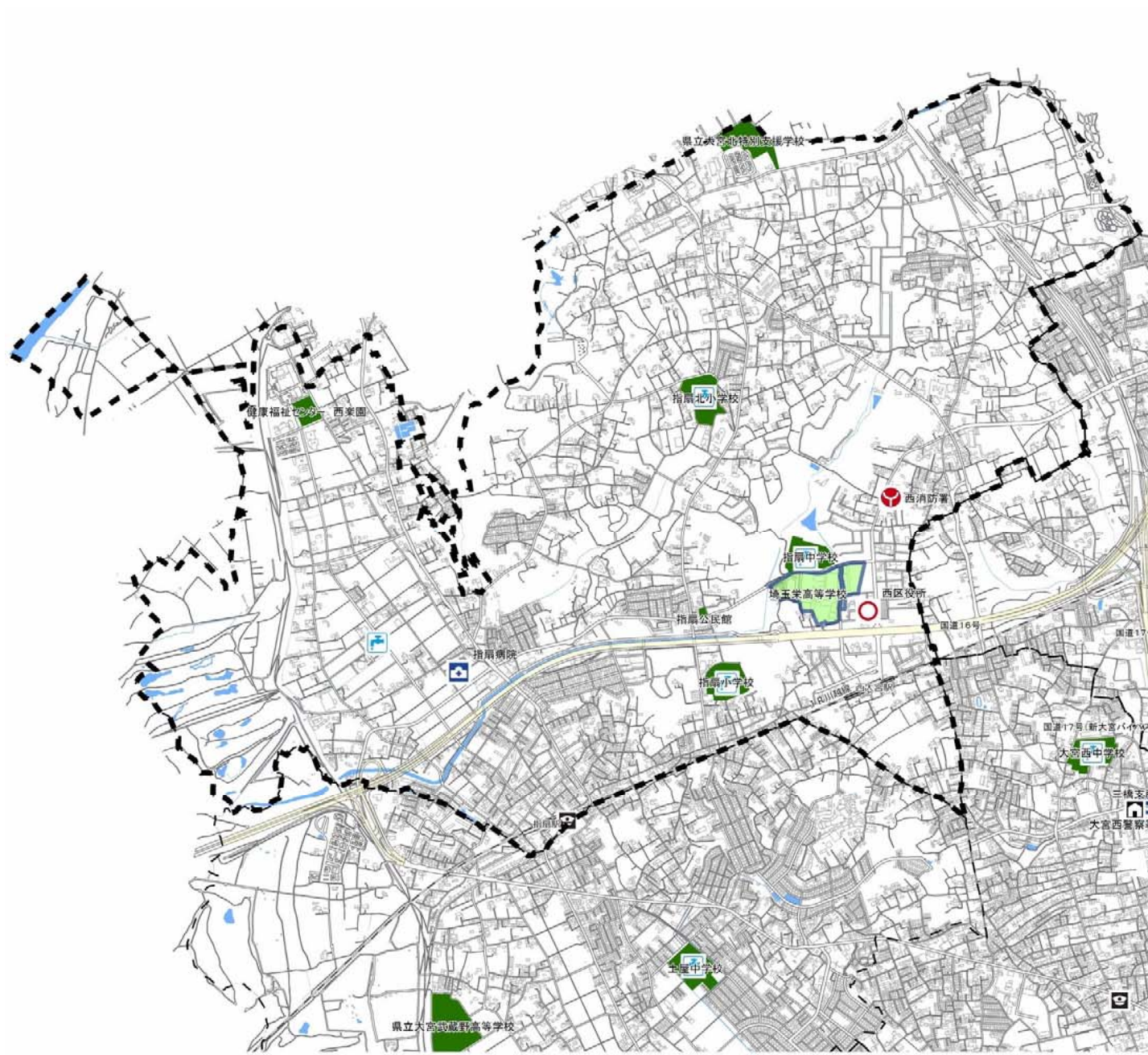
③防災マップ

さいたま市防災カルテ

指扇中学校区

西

NISHI



凡例

	避難場所		消防署
	一時避難場所		消防署(出張所)
	広域避難場所		警察署
	市役所		交番・駐在所
	区役所		救急病院
	支所・市民の窓口		応急給水場所

(平成26年2月時点の情報で作成)

メモ欄

